

④防災資器材の整備

□災害用備蓄倉庫（コンテナ型）

災害発生後に避難所に物資を配送するには時間がかかることから、災害発生直後に必要となる物資を中心に、指定避難所である小学校及び旧湊小学校、みはら大地幼稚園の96箇所に災害用備蓄倉庫（コンテナ型）を設置しています。



災害用備蓄倉庫(コンテナ型)の
備蓄物資一覧

仮設トイレ	ハンマー(両口)
簡易トイレ	ハンマー
トイレトーパー	救助用ロープ
生理用品	ノコギリ
発電機セット	スコップ(丸パイプ柄)
毛布	ボール
ブルーシート	ツルハシ
万能斧	ボルトクリッパー
担架	軍手



※施錠は、2面ある扉に4桁ダイヤルの番号錠を取り付けており、解錠番号は、区役所、指定避難所施設管理者、校区自治連合会、災害地区班員のそれぞれにお知らせしています。

□各区役所備蓄倉庫

各区役所にある備蓄倉庫には、避難所生活をおくる上で最低限必要な物資のうち、災害用備蓄倉庫（コンテナ型）に収容しきれない毛布やトイレなどの備蓄物資と、温湿度管理が必要な食糧等を保管しています。





2-3. 防災訓練等

①防災訓練の実施

いつ災害が発生しても対処できるようにするため、地域で防災訓練を行ってください。防災に関する知識を持っていても、災害時にとっさに行動に移せるようにするためには、防災訓練を繰り返し行うことが大切です。災害時の被害を最小限におさえるため、地域で一丸となって取り組みましょう。

個別訓練

情報収集・伝達訓練、消火訓練
救出・救護訓練、避難訓練
給食・給水訓練

総合訓練

個別訓練によって習得した知識・
技術を総合して行う訓練

図上訓練

災害に対するイメージトレーニング訓練

②個別訓練

□情報収集・伝達訓練

地域内の被災状況、災害危険箇所の巡視結果及び避難の状況を正確かつ迅速に収集します。無線等を活用した防災関係機関や地域住民との的確な情報のやりとりができるように、伝達方法を習得しておきましょう。



□消火訓練

火災の拡大を未然に防ぐためには、初期消火活動が欠かせません。いったん、燃え広がると手の付けようがありません。火が床から天井に届くまでに約3～5分といわれていますので、消火器やバケツなどの有効な使い方を習得しておきましょう。



□救出・救護訓練

倒壊した家屋に閉じ込められた人の救出方法や、ロープ、はしご、ジャッキ等の資器材の使用方法などを習得します。また、負傷者等の応急手当や搬送の方法等しっかりと訓練を重ねておきます。



□避難訓練

火災、地震、水害など、災害の種類によって避難方法も異なります。平素から避難誘導の方法が確立されているかどうかは、被害の明暗を分ける大きなポイントとなります。また、災害時要援護者には避難時の支援が必要です。地域内の全員が無事に避難できるように、しっかりと訓練を重ねておきます。



□給食給水訓練

大規模災害発生時には、ライフラインが止まったり、流通機能が混乱することで、水、食料の入手や調理が困難になるので、家庭での備蓄の呼びかけや、災害時の実際の状況を想定して、生命と健康の維持に必要な水や食料が手際よく行きわたるように、効果的な訓練に取り組みましょう。



③総合訓練

個別訓練によって習得した知識・技術を総合して、組織の各班相互の連携をとり、適切効果的な防災活動が行えるように総合訓練を実施しましょう。

校区防災訓練実施に関するご相談は…

各区自治推進課へ相談の上、最寄りの消防署に「自主防災訓練実施計画書」を提出し、訓練内容等の計画について相談してください。訓練時の消防署職員による立会いや指導を受けることも出来ます。

防災訓練実施のポイント

- ・ 訓練の日時や場所などをきちんと広報する。
- ・ 訓練の実施要領を地域内に周知徹底する。
- ・ 実施する曜日や日時に変化を持たせ、いろいろな人が参加できるようにする。
- ・ 競争的な要素やゲーム性を取り入れるなど、参加意欲のわく内容にする。
- ・ 9月の防災週間、1月の防災とボランティア週間などに訓練実施日を合わせるのも効果的です。



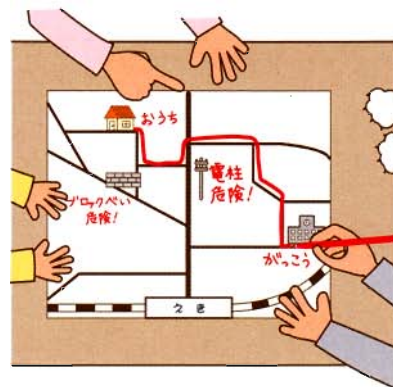
④図上訓練

□災害図上訓練DIG (災害想像力ゲーム)

DIGとは、一言でいえば、地図を囲み皆さんで一緒になって気軽に災害対応策を考えるための災害対応トレーニングです。

DIGのDは、「災害のDisaster」、Iは、「想像力のImagination」、Gは、「ゲームのGame」の頭文字を取って名づけられた災害について地図上で想像するゲームで、誰もができる簡易な災害図上訓練です。

DIGには、決まったルールはありませんが、災害に応じ、立場に応じ、そして参加者の関心に応じてさまざまなDIGが考えられます。共通点は、広げた地図にビニールをかぶせ、その上に油性ペンで知りえた情報等を付箋などに書き込みながら参加者で議論することです。大切なのは、災害発生時に地域や自宅といった自分の周りがどういう状態になるかという災害想像力を高めることです。



□簡易図上訓練の進め方

日頃の防災対策や災害発生直後の行動などにおいて、命を守る非常に重要なもののうちのひとつに「災害想像力」があげられます。

「もし、ここで大地震が発生したら…」と対応を想像することが、いざというときの行動に役立ちます。そういった災害想像力を養う訓練を、自主防災組織のメンバーで楽しみながら行うことができる方法を順序に沿って紹介します。

①参加者のグループ分け

参加者を数名ずつのグループに分ける。できるだけ住んでいる地域が近い人などを集めると、同じ地域の情報を共有しやすいので効果的です。

②簡易ミーティング

同じグループのメンバー同士、簡単にお互いを知ってもらい、発言しやすいように自己紹介を行う。話題の例は、自分の住んでいるおおよその場所、家庭で行っている防災対策や、以前地震に遭った時に自分のとった行動など。

③トレーニング方法の説明

簡単にトレーニングの方法を説明します。
(必要なもの) サインペン、かご、数色の付箋、模造紙など

④トレーニングの開始

ではさっそく、次の手順に従って、トレーニングをはじめましょう。

□トレーニングゲーム「地震!!そのとき、あなたはどうする??」

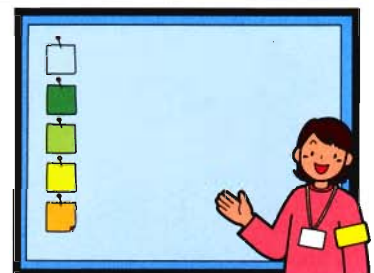
「課題設定(想定)」

今は平日のお昼前です。あなたがこの写真の場所(前に掲示する)にいると想像してみてください。その時、立ってられないくらいの大きな揺れを感じました。

次の内容について、グループで話し合い、あらゆる角度から分析してみましょう。

自由に発言、意見交換ができる雰囲気づくりを心がけましょう。基本的には正解も不正解もありませんし、参加者の優劣をつけるものでもありません。他人の意見をよく聞いて否定せず、どうしても異論がある場合は代案を出しましょう。

〈P.17へつづく〉



■イメージトレーニング内容

作業時間は15分間です。
では、早速
はじめましょう！



つぎの1～5のステップに従って、各グループで、意見・疑問・不安・違和感を感じるようなことを話し合っ、指定の色の付箋にサインペン等で意見を書き込んで、模造紙にどんどん貼り付けていってください。

□イメージトレーニング ステップ1

大きな揺れの直後、あなたの周りの状況はどうなっていますか？

想像力豊かに「〇〇かもしれない」を話し合っピンク色の付箋（小）に書き込んでください。お互いの意見を否定することなく、少しでも思ったことをどんどん出していきましょう。また、こんな備えをしておけばよかったと思うことを黄色色の付箋（大）に書き込んでいってください。

□イメージトレーニング ステップ2

その時のあなたの身を守る方法を教えてください。

緑色の付箋（小）に書き込んでいってください。
できるだけ具体的に表現してください。
また、こんな備えをしておけばよかったと思うことを黄色色の付箋（大）に書き込んでください。

□イメージトレーニング ステップ3

強い揺れはいったんおさまったようです。さあ、これからあなたは何をしますか。

青色の付箋（小）に書き込んでいってください。
また、こんな備えをしておけばよかったと思うことを黄色色の付箋（大）に書き込んでください。

□イメージトレーニング ステップ4

安全な場所まで移動できました。このあとあなたはどうしますか??

黄色色の付箋（小）に書き込んでいってください。
また、こんな備えをしておけばよかったと思うことを黄色色の付箋（大）に書き込んでいってください。

最後に、災害時を想定した行動などを書き込んだ「小さい付箋」と、その時までに備えておけばよかった意見を書き込んだ「大きな付箋」をまとめて、皆さんがいざというときにすべき行動と、それまでに備えておくべきものをまとめた情報を共有しましょう。



2-4. 地域防災連携

①他の組織や団体等との連携

自主防災組織は、自分たちの地域は自分たちで守ろうと自主的に結成されるものですが、他の自主防災組織（近隣校区等）と活動上の情報交換をし、災害発生時の協力体制を確立しておくことは重要です。

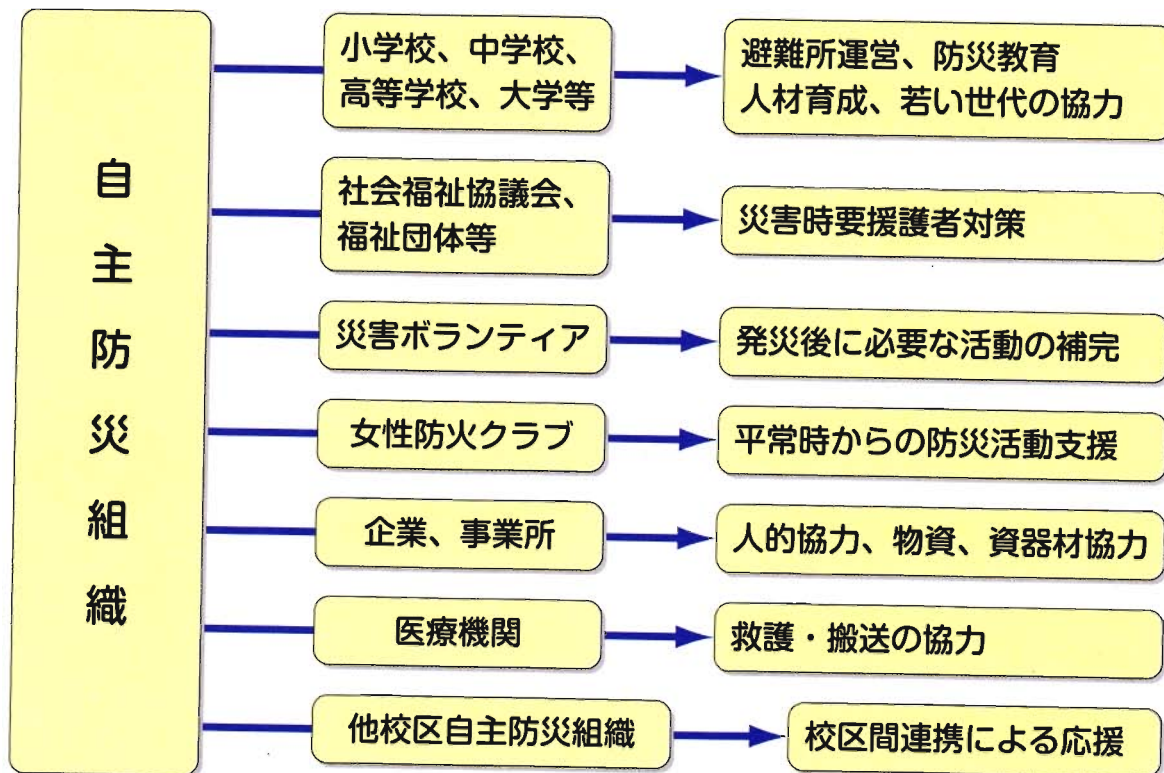
大きい災害ほど、被害は一地域に限りませんので、相互に情報を共有し合い、助け合わなければなりません。

また、地域にある企業や団体、防災関係機関の指導や助言、助力も必要となります。平常時の活動や防災

訓練等を効果的に進め、災害時にも有効に機能する関係づくりのために日頃からよく話し合っておくなど、十分連携をとるようにしてください。



■他の自主防災組織や各種団体との連携図



津波から避難する必要がある場合に、地域にあるマンションや工場などの高い建物に避難させてもらうための覚書や協定を独自に取り交わしている自主防災組織もあります。ぜひ参考にしましょう。



②災害時要援護者支援対策

災害が発生した場合、自力で移動が困難もしくは生活を送る上で困難を抱える高齢者、障害者、妊産婦、乳幼児、児童、傷病者、外国人などを「災害時要援護者」といいます。災害時要援護者支援の体制づくりを地域ぐるみで推進しましょう。



■地域で取り組む災害時要援護者対策のポイント

- ・いざという時に機能する自主防災組織にする。
- ・要援護者カード（台帳）を作成する。
- ・要援護者マップを作成する。
- ・要援護者支援体制づくりを進める。
- ・要援護者避難支援力を高める訓練を実施する。
- ・校区や区域内で進める災害対策、要援護者対応について学び、理解を深める。
- ・被災者や先進事例の話を聞く研修や視察を行う。
- ・ネットワークづくりを進める。



※災害時要援護者対策の詳細については、堺市のホームページに掲載している「堺市民のための地域で進める災害時要援護者避難支援ガイドライン」を参照してください。

【堺市参考情報】

災害時要援護者避難支援を組み込んだ避難所運営訓練を実施している校区も増えてきています。要援護者の安否確認や福祉避難所への移動、被災者に対するカウンセリングなど、さまざまな要援護者支援を取り入れた訓練を民生委員児童委員会や校区福祉委員会、赤十字奉仕団などと連携して取り組んでいます。

